

ツシユがかぶさってきて歩きにくい。最後の一〇分滝で少し遊んで砂防ダムを越えると、もう朝方廻行していった右沢との出合であった。

(記・一)

〔タイム〕

下降開始九・一〇―二保二二・一五

大樽川

下流部廻行

一九八〇年十月十二日

◆天気(曇のち霧)

スカイバレーの管理小屋付近から沢に降りる。少し進むとゴルジュとなる。F1は登れるがF2の直登は少し無理なので二つをあわせて捲く。じきにスカイバレーの橋が出る。この上にも昔の林道の橋がかかっている。

左岸にスカイバレーを見ながら沢は左に曲がる。その先に滑になって支沢が入っている。程沢である。ここらあたりは明るい河原である。

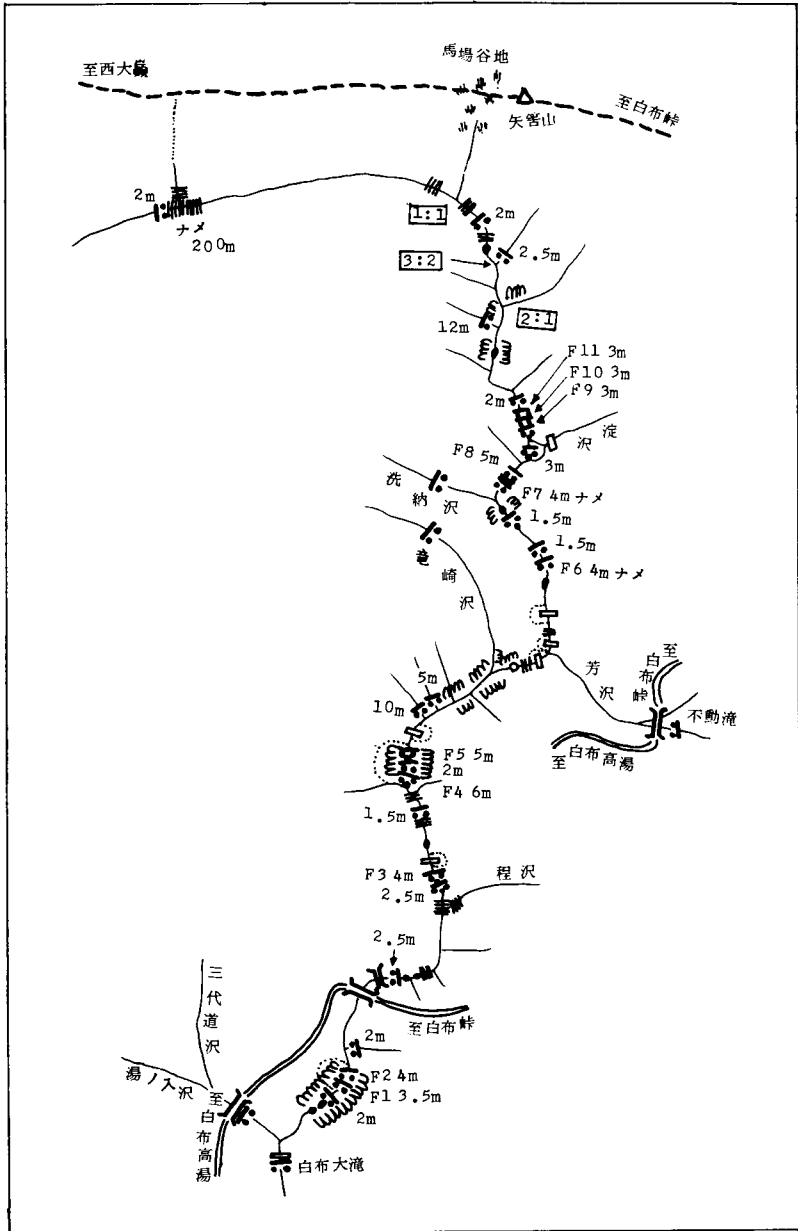
しばらくすると沢が狭くなりS字状となる。その中にある二つの小滝を直登するとその上に砂防ダム。一五分もある。左岸を捲いて下ると広い河原。紅葉が美しい。沢が小さな屈曲をくり返し、トロとナメ、小滝が続く。F4は右岸の小沢を少し登り、岩場をトラバースしてF5と共に捲く。

小沢が両岸から次々と入り、沢は狭く暗くなってくる。やがて竜崎沢出合。本流の方は右に曲がりこんでいる。砂防ダムを越えると今度は芳沢出合。今日は視界も悪くなってきたので上流部の廻行は後日を期してここで終わりにする。

(記・一)



大樽川核心部



大樽川 (作図:)

(タイム)

出合七・〇〇―程沢出合八・〇〇―竜崎沢出合九・三
〇―芳沢出合九・五五―白布高湯一・一〇五

上流部遡行

一九八〇年十月十九日

◆天気(雨)

前回のやり残しなので、多少の雨はがまんして沢に入る。今回は芳沢出合から上部を遡行。

出合のすぐ上に砂防ダムが二つあるが、いずれも右岸に捲き道が付いている。ここでイワナの姿を見かけた。

F 6 四ツ滑滝を過ぎ小さなゴルジュを通過すると洗納沢出合。ここからF 7、F 8が見えている。F 7 四ツ滑滝・F 8 五ツを過ぎ小滝。この滝の上と下に淀沢がわかれて入っている。続くF 9は左岸をへつってとりつき直登。そして右岸に渡りF 10、F 11を直登する。左右から支沢が合流し、本流にはトロや小滝がある。

九時五五分ヤハズ沢出合。水量比はほぼ一・一。だがわずかに本流の方が多い。予定はヤハズ沢に入るのでは



大 樽 川 を 遡 る